

Takashi Oka/岡 孝

世界のために祈る — それは常に実りを伴う

Praying for the world
— the fruitage always follows

岡孝氏は、THE CHRISTIAN SCIENCE MONITOR
紙の特派員を長年勤めたほか、
ジャーナリストとして広く活動してきた。



© NORHIKO YOROI

今日の世界を、メディアを通して見ていると、何が見えるだろうか？ 戦争、飢餓、社会的、また経済的混乱などの非常に多くの問題、そして、破壊されつつける環境であろうか？ 誠実な祈りは、我々個人の生活、また人生にとって有効であり、そして、人類の諸問題の解決に必ず導くということ、どうしたら確信することができるであろうか？

何年前か前のこと、私は、祈りは世界の思考を高めることを助けるばかりではなく、個人個人にも加護をもたらすことが示される経験をした。

ある時、私は、100年前にメリー・ベーカー・エディが創刊した日刊国際新聞、*The Christian Science Monitor*紙の記者団の一員として、ロンドン、その他英国の都市を巡って、モニター紙販売促進のため、熱心な聴衆の前で、集会を開いていた。この旅の3日目に、エジプトとシリアが、突然イスラエルを攻撃した。私は、この紛争について、イスラエル側の動きを追うことを命じられ、同僚の一人はカイロに送られて、エジプト側の動きを報じることになった。

私は数年にわたり、ベトナム戦争の報道に従事してきたが、それまで中東に行ったことがなかった。ロンドンからテルアビブに向かう飛行機の中で、私は、メリー・ベーカー・エディの次の素晴らしい言明に心を集中していた：「唯一無限の神・善は、人々も国々も一

体にする；人々の兄弟関係を築く；戦いをなくす；聖書の『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』という言葉を成就する；異教およびキリスト教の偶像崇拜、つまり社会、民事、刑事、政治、宗教上の法典の中の、正しくないものすべて — を全滅させる；男女を平等にする；人にかかっている呪いを無効にする、そして罪を犯したり、苦しんだり、罰せられたり、滅ぼされたりするものは、何も残しておかない」（『科学と健康』p. 340）。

メリー・ベーカー・エディが思索する人々にもたらした偉大な貢献の一つは、神は心であると、定義したことである。この定義を上記の文に当てはめて、私は、唯一の心は確かに人々も国々も一体にしていること、唯一の心は確かに人々の兄弟関係を築いていること、その心、すなわち神は、確かに戦争をなくし、人にかかっている呪いを無効にしていることを、主張し続けた。イスラエルに滞在した一ヶ月間、私は、毎日、幾度となく、これらの言葉を祈りながら熟考したが、その度に新しい靈感を得ていた。また、私は、自分一人で動いているのではないこと、つまり英国でモニター紙の集会に出席していた人々の大部分が、私のイスラエル取材の無事を祈ってくれていることを確信し、大きな慰めを得ていた。あるとき、私は、新聞記者らが乗ったジープで、イスラエル軍がゴラン高原を越えてシリアに入る後について走っていた。迫撃砲弾が、激

しい音をたてて頭上を飛び交うなか、我々は、ジープから飛び降りて、道路脇の小さな溝に転がり込んだ。それが木一本生えていない真っ平らな草原で見つけた唯一の逃げ場だった。砲撃は、10分か15分で止んだが、何時間も続いたように思われた。その間ずっと、私は、パニックとか恐怖をまったく感じることなく、心が、私、そして私の同僚たちと共にあるという、素晴らしい確信を得ていた。

後にヨムキップ戦争として知られる（ユダヤの重要な祭日に始まったため）この事件の戦闘そのものは、数日だけのものとなり、私は、イスラエル滞在の残りの日々を、部隊を追うのではなく、役人や市民たちから、彼らの希望や恐れ、またパレスチナ人をも含むアラブの人々との和解の必要などについて、洞察に富む情報を得て過ごすことができた。この経験は、私の長い新聞記者生活のなかでも、最も報いある任務のひとつとなった。そしてまた、世界のため、世界が抱える諸問題のために、祈る必要に敏感でなくてはならないこと、しかも抽象的にではなく、人間の感覚、気持ちを襲うとんでもない恐ろしさ、やるせなさに対して、真っ正面から立ち向かって祈らねばならないことを教えてくれた。何が、人間の目に映ろうとも、心は確かに、心そのものの宇宙を統治し、戦争をなくし、人にかかっている呪いを無効にすることを、教えてくれたのである。✿